

令和6年度ネットリサーチ「がん対策」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

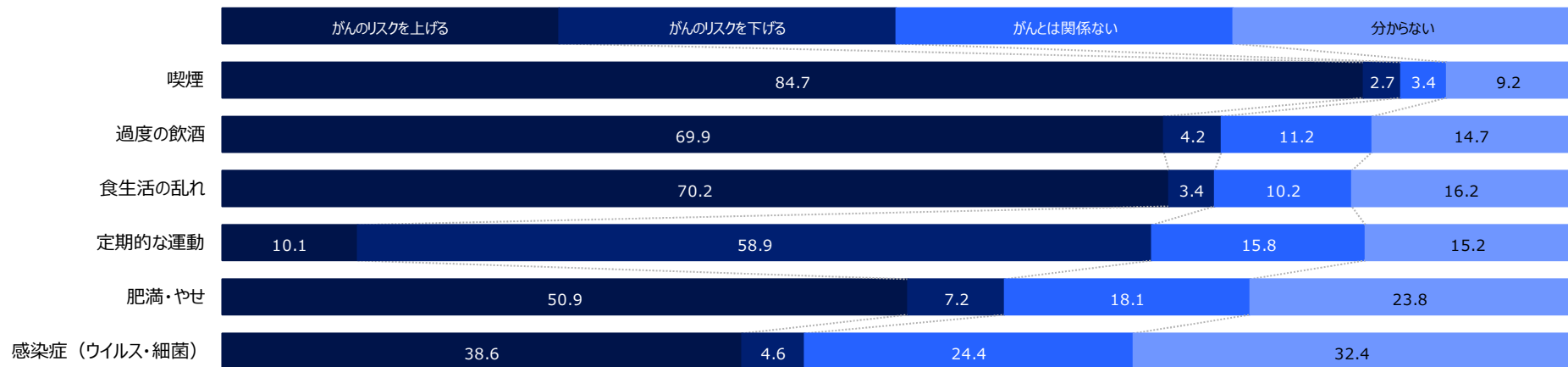
- がんのリスクに関する意識について、「喫煙」、「過度の飲酒」、「食生活の乱れ」、「肥満・やせ」及び「感染症（ウイルス・細菌）」は、「がんのリスクを上げる」と回答した方が最も多い。一方で、「定期的な運動」は、「がんのリスクを下げる」と回答した方が最も多い。
- がん検診を受けた主な理由について、「定期的に受けることにしているから」が50.7%で最も高く、「人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから」が26.2%と続く。
- がん検診を受けやすくする効果的な取組について、「自己負担がなく、無料で受診できるようにする」が40.6%で最も高く、「土日や祝祭日に受診ができるようにする」が27.5%と続く

■調査結果の概要

1 がんのリスクに関する意識

- ☆ 「喫煙」、「過度の飲酒」、「食生活の乱れ」、「肥満・やせ」及び「感染症（ウイルス・細菌）」は、「がんのリスクを上げる」と回答した方が最も多い。
- ☆ 一方で「定期的な運動」は、「がんのリスクを下げる」と回答した方が最も多い。

Q1.あなたは、次の項目と、がんの関係についてどう思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

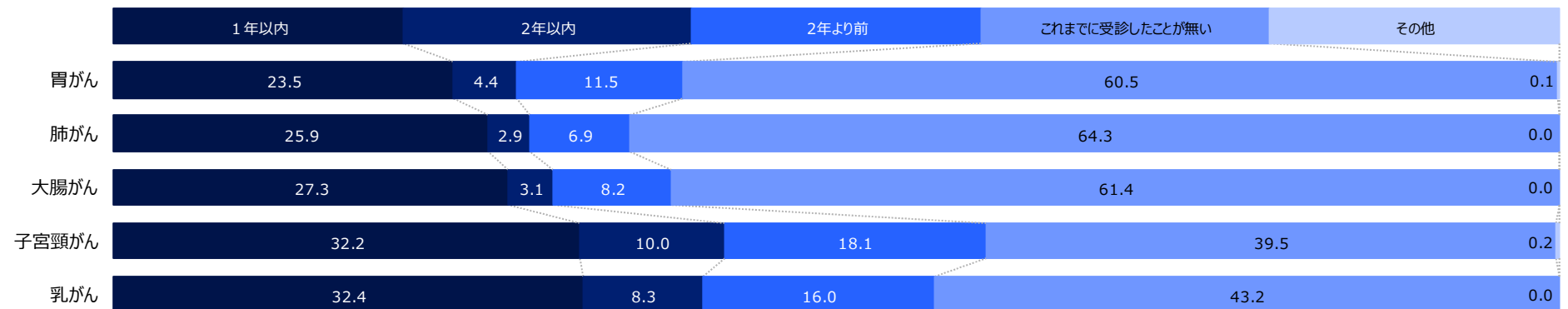


	n	がんのリスクを上げる	がんのリスクを下げる	がんとは関係ない	分らない
喫煙	100.0 1000	84.7 847	2.7 27	3.4 34	9.2 92
過度の飲酒	100.0 1000	69.9 699	4.2 42	11.2 112	14.7 147
食生活の乱れ	100.0 1000	70.2 702	3.4 34	10.2 102	16.2 162
定期的な運動	100.0 1000	10.1 101	58.9 589	15.8 158	15.2 152
肥満・やせ	100.0 1000	50.9 509	7.2 72	18.1 181	23.8 238
感染症（ウイルス・細菌）	100.0 1000	38.6 386	4.6 46	24.4 244	32.4 324

2 がん検診の受診経験

- ◇ 「胃がん」について「1年以内」(23.5%)、「2年以内」(4.4%) 及び「2年より前」(11.5%) を合わせた「受診したことがある」は 39.4%となっている。
- ◇ 「肺がん」について「1年以内」(25.9%)、「2年以内」(2.9%) 及び「2年より前」(6.9%) を合わせた「受診したことがある」は 35.7%となっている。
- ◇ 「大腸がん」について「1年以内」(27.3%)、「2年以内」(3.1%) 及び「2年より前」(8.2%) を合わせた「受診したことがある」は 38.6%となっている。
- ◇ 「子宮頸がん」について「1年以内」(32.2%)、「2年以内」(10.0%) 及び「2年より前」(18.1%) を合わせた「受診したことがある」は 60.3%となっている。
- ◇ 「乳がん」について「1年以内」(32.4%)、「2年以内」(8.3%) 及び「2年より前」(16.0%) を合わせた「受診したことがある」は 56.7%となっている。

Q2.あなたはいつ、がん検診を受けましたか。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



	n	1年以内	2年以内	2年より前	これまでに受診したことが 無い	その他
胃がん	100.0 1000	23.5 235	4.4 44	11.5 115	60.5 605	0.1 1
肺がん	100.0 1000	25.9 259	2.9 29	6.9 69	64.3 643	0.0 0
大腸がん	100.0 1000	27.3 273	3.1 31	8.2 82	61.4 614	0.0 0
子宮頸がん	100.0 481	32.2 155	10.0 48	18.1 87	39.5 190	0.2 1
乳がん	100.0 481	32.4 156	8.3 40	16.0 77	43.2 208	0.0 0

(参考) がん検診について

胃がん検診・・・バリウムによるレントゲン撮影や胃カメラなど

肺がん検診・・・胸のレントゲン撮影や喀痰検査など

大腸がん検診・・・便潜血反応検査（検便）など

子宮頸がん検診・・・子宮頸部の細胞診検査など

乳がん検診・・・マンモグラフィ撮影（乳房のレントゲン撮影）や超音波検査（エコー）など

【茨城県がん検診実施指針に基づく検診内容】

○胃内視鏡検査又は胃部エックス線検査・50歳以上（胃部エックス線検査は40歳以上でも可）・2年に1回（胃部エックス線検査は年1回でも可）

○胸部エックス線検査＋喀痰細胞診・40歳以上・年1回

○便潜血検査・40歳以上・年1回

○子宮頸部の細胞診・20歳以上・年1回

○乳房エックス線検査又は乳房エックス線検査＋超音波検査・40歳以上・2年に1回

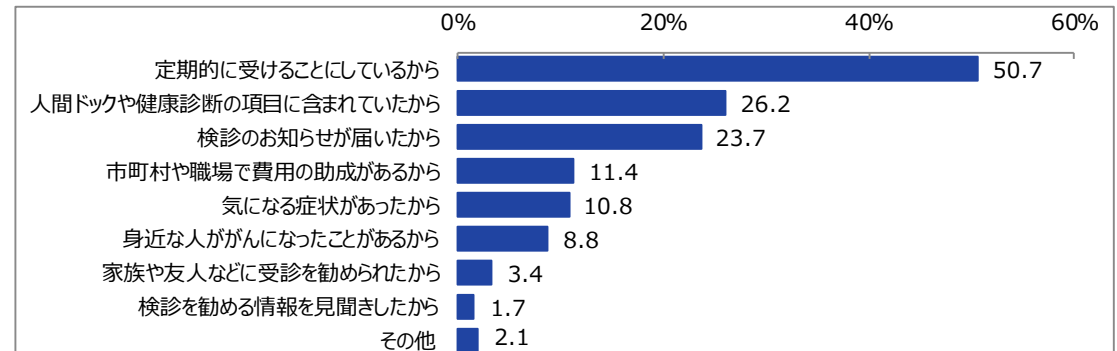
3 がん検診を受けた主な理由

☆ 「定期的に受けることにしているから」が50.7%で最も高く、「人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから」が26.2%と続く。

(Q2で「1年以内」「2年以内」「2年より前」と回答された方へ)

Q3.あなたががん検診を受けることになった主な理由はなんですか。次の中から最もあてはまるものを2つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	535
定期的に受けることにしているから	50.7	271
人間ドックや健康診断の項目に含まれていたから	26.2	140
検診のお知らせが届いたから	23.7	127
市町村や職場で費用の助成があるから	11.4	61
気になる症状があったから	10.8	58
身近な人ががんになったことがあるから	8.8	47
家族や友人などに受診を勧められたから	3.4	18
検診を勧める情報を見聞きしたから	1.7	9
その他	2.1	11

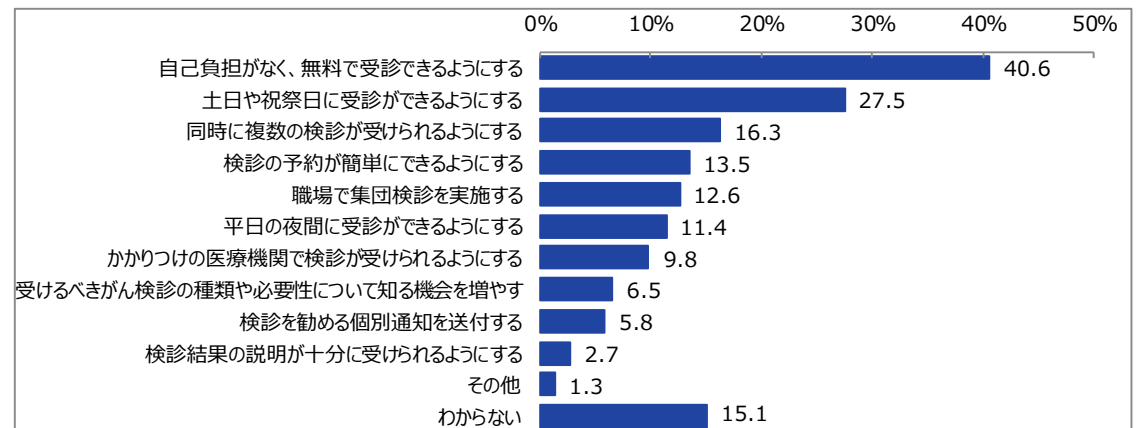


4 がん検診を受けやすくする効果的な取組

☆ 「自己負担がなく、無料で受診できるようにする」が40.6%で最も高く、「土日や祝祭日に受診ができるようにする」が27.5%と続く。

Q4.あなたは、がん検診を受けやすくするためには、どのような対策が必要だと思いますか。以下の中から2つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
自己負担がなく、無料で受診できるようにする	40.6	406
土日や祝祭日に受診ができるようにする	27.5	275
同時に複数の検診が受けられるようにする	16.3	163
検診の予約が簡単にできるようにする	13.5	135
職場で集団検診を実施する	12.6	126
平日の夜間に受診ができるようにする	11.4	114
かかりつけの医療機関で検診が受けられるようにする	9.8	98
受けるべきがん検診の種類や必要性について知る機会を増やす	6.5	65
検診を勧める個別通知を送付する	5.8	58
検診結果の説明が十分に受けられるようにする	2.7	27
その他	1.3	13
わからない	15.1	151

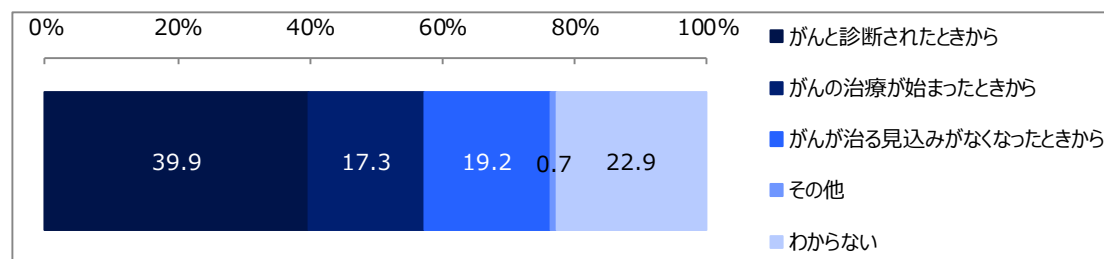


5 緩和ケアを実施すべき時期

☆ 「がんと診断されたときから」が39.9%で最も高く、「わからない」が22.9%と続く。

Q5.がん診療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みをやわらげることですが、あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。以下の中から1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
がんと診断されたときから	39.9	399
がんの治療が始まったときから	17.3	173
がんが治る見込みがなくなったときから	19.2	192
その他	0.7	7
わからない	22.9	229



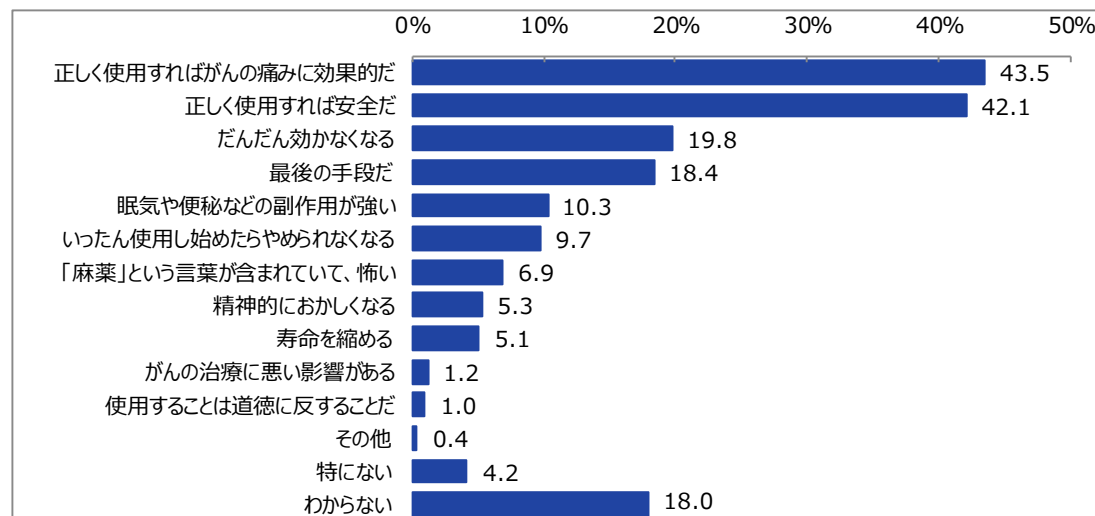
6 医療用麻薬に対する印象

☆ 「正しく使用すればがんの痛みに効果的だ」が43.5%で最も高く、「正しく使用すれば安全だ」が42.1%と続く。

緩和ケアでは、がんなどの激しい痛みの治療などの目的で「医療用麻薬」（モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル等）を用いることがあります。「医療用麻薬」は痛みを伝える神経に作用して痛みをやわらげる効果があり、がんの進行度に関わらず、痛みの程度に応じて使用することができます。

Q6.このことを踏まえた上で、あなたは、医療用麻薬についてどのような印象を持っていますか。以下の中から当てはまるものを全て選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
正しく使用すればがんの痛みに効果的だ	43.5	435
正しく使用すれば安全だ	42.1	421
だんだん効かなくなる	19.8	198
最後の手段だ	18.4	184
眠気や便秘などの副作用が強い	10.3	103
いったん使用し始めたらやめられなくなる	9.7	97
「麻薬」という言葉が含まれていて、怖い	6.9	69
精神的におかしくなる	5.3	53
寿命を縮める	5.1	51
がんの治療に悪い影響がある	1.2	12
使用することは道徳に反することだ	1.0	10
その他	0.4	4
特にない	4.2	42
わからない	18.0	180

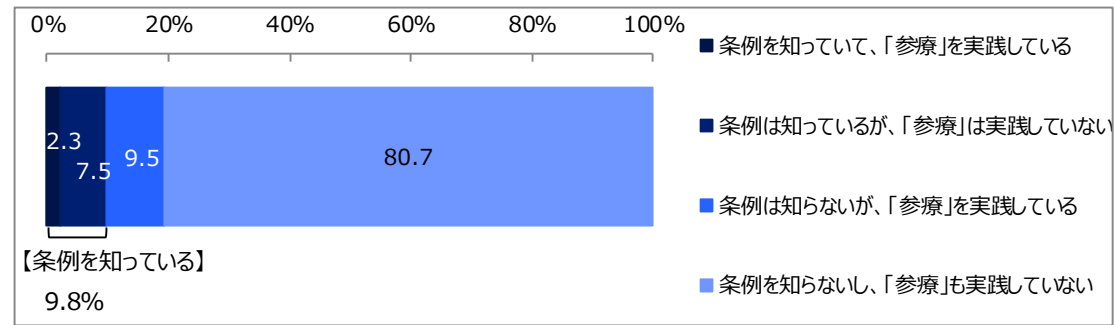


7 「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」の認知度及び「参療」の実践状況

☆ 「条例を知っていて、『参療』を実践している」(2.3%)、「条例は知っているが、『参療』は実践していない」(7.5%)を合わせた【条例を知っている】は9.8%となっている。

Q7.あなたは、「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」を知っていますか。また、普段からがんに関する知識を身につけたり、積極的にがん検診を受診するなどの「参療※」を実践していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
条例を知っていて、「参療」を実践している	2.3	23
条例は知っているが、「参療」は実践していない	7.5	75
条例は知らないが、「参療」を実践している	9.5	95
条例を知らないし、「参療」も実践していない	80.7	807



(※) 参療とは
がん医療に主体的に参画することです。例として、情報サイトや新聞、書籍、研修会や講演会など、さまざまな機会を通じて、普段からがんに関する基本的知識を身に付けることなどが挙げられます。
「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」について、詳しくは茨城県ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yobo/sogo/yobo/cancergrop/cacode.html>

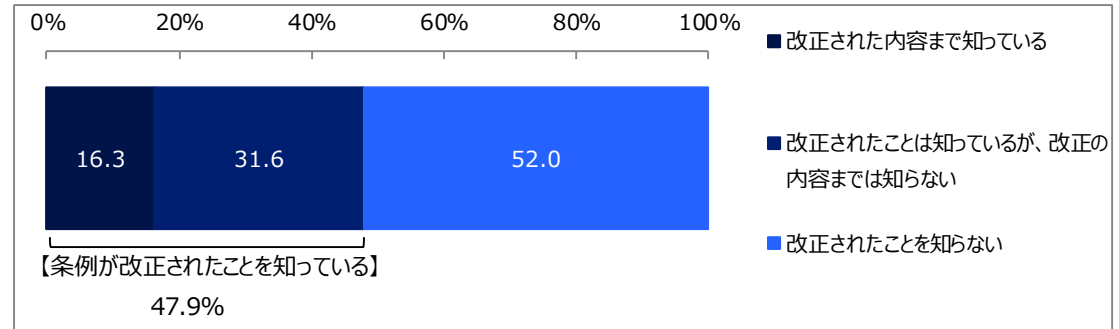
8 「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」の改正に対する認知度

☆ 前問で【条例を知っている】と回答した方に条例改正の認知について聞いたところ、「改正された内容まで知っている」(16.3%)、「改正されたことは知っているが、改正の内容までは知らない」(31.6%)を合わせた【条例が改正されたことを知っている】は47.9%であった。

(Q7で「条例を知っていて、「参療」を実践している」「条例は知っているが、「参療」は実践していない」を選択した方へ)

Q8.あなたは、「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」が今年の6月に改正され、例えば、小児世代(15歳未満)のがん対策推進にAYA世代(15歳以上40歳未満)も追加するなど、内容が拡充されたことを知っていますか。以下の中から1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	98
改正された内容まで知っている	16.3	16
改正されたことは知っているが、改正の内容までは知らない	31.6	31
改正されたことを知らない	52.0	51



■調査の目的

茨城県では、令和５年度に茨城県総合がん対策推進計画－第五次計画－（以下、県がん計画という。）を策定し、今年度から計画に基づき、がんに関する知識の普及啓発やがん検診の推進等、様々ながん対策を推進している。また、令和６年度には、「茨城県がん診療を推進し、がん向き合うための県民参療条例」（以下、参療条例という。）の改正を実施した。

本調査は、県がん計画の進捗状況評価及び参療条例についての認知度確認を目的として実施する。

■実施概要

- ・実施期間：令和６年１１月１日～１１月１０日
- ・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和６年４月１日現在）に基づく性別・年代・居住地（５地域）の割合で割り付けた１８歳以上の県民１,０００サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		110	246	93	362	189	1,000
性別	男性	57	126	50	187	99	518
	女性	53	120	43	175	90	482
年代別	18～29 歳	17	41	16	70	33	177
	30 歳代	16	42	16	61	30	165
	40 歳代	21	54	20	81	41	217
	50 歳代	28	59	21	83	44	235
	60 歳代	28	50	20	67	41	206

- 県 北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡
- 県 央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡
- 鹿 行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
- 県 南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
- 県 西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

（注）

- １．「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
- ２．割合を百分率で表示する場合は、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- ３．図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。
- ４．男性 18～29 歳の回収件数は、「県北」及び「県西」の地域で目標値（上記の件数）を下回ったため、男性 30 歳代で「県北」３サンプル及び「県西」５サンプルを超過回収し、地域×性年代の人口分布に極力近づくように調整した。